

新潟県花き振興協議会（新潟県）

協議会構成団体：新潟県花き球根振興協議会、新潟県花木振興協議会、全国農業協同組合連合会新潟県本部、(株)新花、新潟県園芸商協会、新潟県グリーンサービス協会、(一社)JFTD新潟支部、新潟農業・バイオ専門学校、新潟県、他

対象品目

切り花：チューリップ
ユリ



< 取組内容 >

< 取組の成果 >

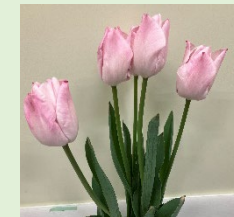
1 需要構造の変化に対応した生産・流通体制の整備

- チューリップ切り花の品質を低下させない保管技術の確立を目的として、0℃及び2℃の低温下での2週間及び4週間の保管試験と産地実証に取り組んだ。



保管試験を実施

- 供試した6品種のうち、「恋心」、「ロレンツォ」は4週間保管後でも7日以上、「レディマゴット」、「リファンダマーク」、「カバナ」、「ノスキャップ」は2週間保管後でも7日以上の日持ちがすることを明らかにした（保管試験）。
- 供試した6品種のうち、「レディマゴット」、「レザーゲーム」は4週間保管後でも、7日以上の日持ちがすることを明らかにした（産地実証）。



4週間保管後の7日目の「レザーゲーム」

2 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

- オリエンタル系ユリ切り花栽培について、高騰する肥料代等の施肥コストの低減を目的に、慣行の複合肥料からより安価な窒素単肥のみを利用した新たな施肥体系を開発する。

- 新たな施肥体系（窒素単肥）は切り花長、切り花重、莖径など切り花品質が慣行と同等となり、施肥コストを慣行比9割程度、大幅に削減出来ることを確認した。このことから、ユリ切り花の品質は球根の貯蔵養分の影響が大きいと考える。

実証地「魚沼市堀之内」の施肥量と施肥コスト

窒素単肥 N-P-K = 14- 0- 0kg/10a 5,938円/10a
慣行 N-P-K = 59-31-25kg/10a 86,723円/10a



実証地「南魚沼市大和」の切り花
左：窒素単肥 中：減肥 右：慣行

3 花きの消費拡大・利用定着の取組

- 若年層への県産チューリップの認知度向上と、日常生活で花を贈る文化の啓発を目的として、Jリーグのホーム開幕戦の会場において、スタジアム敷地内の県産チューリップ装飾、来場者への啓発資料と県産チューリップ2本セット（自分用・大切な人に贈る用）の配布・アンケート調査を行った。

自宅で装飾した感想をSNSに投稿した来場者がいた他、アンケート回答者224名の半数近くから、「花を贈りたい」「これをきっかけに今後は花きを家庭に取り入れたい」等の感想が聞かれた。



来場者向けのフォトスポット

< 今後の取組予定 >

- 実証した品質保持技術の普及・改善を進め、県産花きの品質向上・安定供給につなげる。
- 各種イベント開催を通じてより親しみやすい花き展示を行い、花のある暮らしの提案、若年層や新規購入層等、花きの購入層の裾野の拡大を図る。

石川県花き振興地域協議会（石川県）

協議会構成団体： 石川県花き園芸協会、金沢総合花き株式会社、株式会社花市場、石川県花商事業協同組合、金沢公設花き小売組合、石川県生花小売商協同組合、北陸園芸商組合、(一社) JFTD石川支部、(公社) NFD石川県支部、全国農業協同組合連合会石川県支部、金沢市公設花き地方卸売市場、石川県農林水産部

対象品目 切り花：エアリーフローラ（フリージア）



< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1 需要構造の変化に対応した生産・流通体制の整備

- エアリーフローラは、促成作型（2月上旬出荷）と通常の作型（3月中旬出荷）の端境期（2月下旬～3月上旬）に出荷量が減少することから、「3月上旬の出荷量拡大に向けた、ハウス内温度のモニタリングによる温湿度管理と併せた新しい促成作型（3月上旬出荷）の導入実証を実施。

- ハウス内温度のモニタリングによる温湿度管理と併せた促成作型導入実証により、需要期へ収穫時期を移動させることが可能と分かった（3月中旬→3月上旬）。
→実証地区では、前年と比較して30%程度需要期の出荷本数が増加した。（前年：80千本 実施年：104千本）

※エアリーフローラは生育ステージによって生育適温が異なり、開花時期のコントロールは非常に難しく、暖冬や大雪など気候条件によっても開花時期がずれることから、これまで端境期（需要期）に出荷するための生産体制を整えることが難しかったが、その課題を解決するために実証を行った。



収穫時期のほ場（2月下旬）

2 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

- エアリーフローラの八重品種は一重品種に比べて開花に要する養分が多く必要なことから、一部の品種で、出荷後に最後まで開花せず、観賞価値が下がるという課題がある。
そのため、観賞価値向上のための、品質保持剤（後処理剤）を用いた開花数の増加実証を実施。

- 実需者からは、市場で高評価を得るためには5花以上開花することが必要と言われているが、品質保持剤の使用により、開花に要する養分を補うことが出来るため、全ての処理区で5花以上開花することが分かった。（無処理区は60%が5花まで開花せず）
- 品質保持剤の使用により、側枝の小花まで開花することが分かった。



無処理

品質保持剤使用

3 花きの消費拡大・利用定着の取組

- エアリーフローラの知名度向上と販売促進を目的に、ワールドフラワーコンテストで受賞経験のある県内出身のフロリストによるアレンジメントショー、ワークショップを大型商業施設で開催した。

- イベント後、エアリーフローラを取り扱う生花店90店舗にエアリーフローラを買う人が増えたかどうかアンケートを実施したところ、54店舗が増えたと回答した
- エアリーフローラ公式Instagram (@airyflora.ishikawa) のフォロワー数が、イベント実施後に800名→1000名に増加



アレンジメントショーの様子

< 今後の取組予定 >

- 生産者に対して、乾式冷蔵による促成作型の作付を推進
- 県外向けのエアリーフローラの出荷については、品質保持剤の使用を推奨
- 50歳以下の成人をターゲットにした、県産花きの消費拡大のためのセミナー・イベントを開催

福井県花き連絡協議会（福井県）

協議会構成団体：県内各花き生産組織、福井中央花卉市場、花一（仲卸）、福井県花商協同組合（小売）、福井県華道協会、日本フラワーデザイナー協会福井県支部、ふくいの園芸福祉研究会、日本生花通信配達協会福井県支部、フジテレビフラワーネット福井県支部、福井県農林水産部、JA福井県

対象品目
切り花：キク



< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1 需要構造の変化に対応した生産・流通体制の整備

- 実需者から要望のある業務用の短径ギクを導入するため、開花時期の年次変動が少なく、アブラムシ耐性のある品種の選定、仕立て本数の増加に対応した肥培管理の実証に取り組んだ。

- 赤4品種、白3品種、黄3品種、計10品種の中から、開花期が安定し、アブラムシ耐性のあった白1品種、黄2品種、計3品種を有望品種として選定した。
- アブラムシ耐性のあることがわかった3品種を、慣行品種と比較すると、アブラムシにかかる農薬は39%削減できた。
- 4本仕立て以上の仕立て本数では、施肥量は現行の3/4程度を推奨し、普及していくこととなった。

選定された品種



鈴（りん）



春駒（はるこま）



りん

2 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

- キクにおいて葉が黄化する等の日持ち性の低下が原因とみられる品質低下を改善するため、小売り店業務用後処理剤による日持ち性への影響実証を行った。
- 鮮度保持包装材の再利用による低コスト化の実証を行った。
- 生産者レベルでSTS※を含まない日持ち剤の実証を行った。

- 前処理剤と後処理剤との併用により、日持ち性はおよそ2～5日向上した。
 - 新品と1回使用した鮮度保持包装材の日持ち性に差はなく、連用は可能であった。
 - これまでクレームへと繋がっていた葉緑の枯れについて、日持ち剤に含まれるSTSが影響していたと考え、STS※を含まない日持ち剤の実証を行ったところ、出荷先の市場、実需者からのクレームがなくなった。
 - 日持ち技術の導入で、出荷後の返品がなくなり、平均出荷本数は、5.2%上昇した。
- ※STS…切り花日持ち剤の成分。キクの葉の黄化を抑えることができるが、薬害が出る場合がある。

3 花きの消費拡大・利用定着の取組

- みどりと花の県民運動大会において、フラワーアレンジメントや寄せ植え体験を開催し、花の魅力や楽しみ方を伝えることで消費拡大プロモーション活動を行った。
- 県内の学校や公民館等と連携しながら、フラワーアレンジや寄せ植え等の花育体験を実施した。

- イベント実施直後にアンケート調査したところ、参加者160名のうち145名の購買欲が喚起され（91%）、県産花きの利用促進が啓発された。
- 花育体験の取組直後に参加した生徒等1,363名に対してアンケート調査を実施し、花育体験の満足度は88%となった。また、取組後の追跡調査では1,022名から回答があり、購買頻度増加数は実施前と比べ149%に増加した。



フラワーアレンジメント体験

< 今後の取組予定 >

- 彼岸向けの短径ギクの品種選定を行う。
- 鮮度保持包装材のリサイクルによるコスト低減や二ホンスイセンの品質保持について、調査・実証する。
- 新たな需要の創出・拡大に向け、社会人や学生等の若い世代を対象に、花育活動を実施していく。